

1 題材名 ようすをおもいうかべよう

教材名 鑑賞 「おどる こねこ」(アンダソン 作曲)

表現(歌唱)「ひのまる」(文部省唱歌/高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲)

表現(歌唱)「はる なつ あき ふゆ」(三浦真理 作詞・作曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

|         |   |   |
|---------|---|---|
| A 表現 歌唱 | イ | 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。     |
|         | ウ | 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。                            |
| B 鑑賞    | ア | 楽曲の気分を感じ取って聴くこと                                 |
|         | ウ | 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。 |
| 〔共通事項〕  | ア | 音色、速度、旋律、強弱、拍の流れ                                |
|         | イ | 反復  |

(1) 題材観

この題材では、音楽を聴いて場面の様子を想像しながら楽曲の気分を感じ取ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動を通して、鑑賞したり、表現したりする楽しさを味わうことをねらいとしている。また、歌詞の表す様子や気持ちを想像し、思いをもって表情豊かに歌うことに焦点を当てた学習を進めていく。

これまででは、音楽を表現するうえで必要な拍の流れやリズム、音程に対する感覚を中心に学習してきたが、ここでは表現を豊かなものにするために必要な子供たちの感性を育てることに重点を置いて展開していく。そのため、題材を通して、共通事項や音楽を形づくっている要素をしっかりとらえさせていきたい。歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、楽曲の気分や語感にあった表現を工夫して歌う学習を進め、2年生の題材「6. ようすを おもいうかべよう」の学習へとつなげていく。

鑑賞教材の「おどるこねこ」は、子供たちにも親しみやすい猫を題材としている。また、緩・急・緩の構成になっているため、強弱や速度の変化を感じ取りやすい。曲に合わせて体を動かす活動を通して、楽しみながら曲想の変化を感じ取ることができる教材である。

歌唱教材の「ひのまる」は、拍の流れや旋律のまとまりを感じとりやすい教材である。また、旋律がファ～レの6音で作られているため、子供たちも歌いやすく、自分の声や友達の声聴き合う活動もとりにくみやすい。

歌唱教材の「はる なつ あき ふゆ」は、「わたげがふわり」「おおきなくじら」「こりすがちょろり」「きたかぜつめたい」などの歌詞から、それぞれの季節のイメージを豊かに膨らませることができる。歌詞から膨らませたイメージをもとに歌い方を工夫する活動を通して、楽曲に対する自分の考えや思いをもって歌うことができる教材である。

題材を通して、音楽の全体的な気分、表情の変化、楽器が奏でる疑似音などを聴き取りながら、挿絵や歌詞を手助けとして自由に様子を思い浮かべて聴いたり、また、思い浮かべた様子をもとに歌詞のイ

メージを生かして表情豊かな歌い方を工夫したりする学習を行う。このことにより、児童の表現をより豊かにし、感性を育てていきたい。

## (2) 児童の実態 (男子12名 女子13名 計25名)

本学級の児童は歌ったり、楽器を演奏したりすることに興味・関心が高い。また、新しい曲に取り組むことも好きで、4月に入学してから、毎月、新しい今月の歌を学習することを楽しみにしている。また、楽曲の雰囲気や気分を表す際には、音楽を聴きながら手を動かしたり、足踏みしたり、体を揺らしたりというように身体を動かすことが多く見られる。しかし、自分の音や友達の音をよく聴いたり、音楽にじっと耳を傾けたりするような聴き方には慣れていない。また、たくさんの曲や音に触れる経験が少なく、きれいな音や豊かな声の認識がなかなかもてず、大きな声で歌おうと思うと怒鳴り声で歌ってしまう場面が見られる。音楽を、一人一人が自分の感じ方で聴き、さらに自分とは違った聴き方があることに気付くなど、その子らしさを大切にしながら、互いに感性を高めあうことが大切であると考えている。また、自分の感じたイメージや思いを身体表現だけでなく、言葉で表し、それを音に反映させていくような経験も踏んでいきたいと考える。

## (3) 指導観

題材を通して、音楽を感じるイメージを挿絵や歌詞を手がかりに丁寧に膨らませていく。また、それぞれの教材を通して、きれいな音や豊かな声の感覚も養っていきたい。特に、「はる なつ あき ふゆ」の教材では、歌詞を丁寧に音読することにより、それぞれの季節のイメージを一人一人がもてるようにしたい。歌詞の中でもそれぞれの季節のキーワードとなる言葉（「ふわり」「ざぶんと」「ちょろり」など）に注目し様子を体の動きで表したり声の強弱や発音に気をつけて読めるようにする。また、1年生の子供たちは生活経験も少なく、一人一人の経験の中では、各季節について豊かなイメージを持つことは難しい面がある。そのため、生活科の「はなや やさいを そだてよう」「おもしろいあそびがいっぱい」「なつはたのしいことがいっぱい」「いきものとなかよし」「あきと ふれあおう」などの単元と関連させて、季節感を味わわせることにより、イメージを共有し、豊かな表現を目指していきたい。

ふくらませたイメージをもとに、表現を工夫する際には、音楽を形づくっている要素を提示しておくことにより、「歌詞→イメージ→使った音楽の要素→表現の工夫」と段階を踏んで自分のイメージした音で歌えるようにしたい。（「ふわり→やさしく→強弱→小さな声で」「ざぶんと→大きな波がくるみたいに→速さ・強弱→大きな声で少しゆっくり」「つめたい→さみしく→強弱→小さな声で」など）

## 3 題材の目標

- ・楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いをもって表現したりする。
- ・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分にあった表現を工夫して歌う。

#### 4 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度  | 音楽表現の創意工夫  | 音楽表現の技能  | 鑑賞の能力   |
|---|--|--|---|
| <p>①想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> | <p>①歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> | <p>①旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、正しい音程やリズムで歌っている。</p> <p>②歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。</p> | <p>① 創像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。</p> |

#### 5 研究の視点について

##### 【視点2】小中連携を関連させた題材構成（指導計画）

小学校第1学年の児童は歌ったり、楽器を演奏したりすることは好きだが、自分の音や友達の音を聴いたり、音楽にじっと耳を傾けたりするような聴き方にはなれていない。そのため、どうしても怒鳴り声でうたってしまったたり、楽器でやみくもに大きな音を出してしまったりすることがある。小学校第1学年の発達段階に応じて様子を思い浮かべて表現することにより、豊かな音楽表現に気づかせていきたい。

これまで歌唱教材に取り組む際には、体を動かすことを中心に表現の工夫を行ってきた。「ひらいたひらいた」を歌うときには、手を花の形にして花が開いた様子を表したり、「うみ」を歌うときには、波の様子を体を動かして表現したりした。これらの活動を通して、旋律や曲想を感じ取ることはできるようになったが、歌唱表現をする際、感じ取ったことを強弱や速度などに変化をつけて表現できる児童は少ない。また、表現を工夫して歌おうとしても具体的に何をどう変化させて歌うかを言葉にしたり、音にしたりすることはなかなかできない。そこで、音楽を形づくっている要素として「音色」「速度」「強弱」をキーワードとして示し、児童が工夫を考える際の手助けとしたい。また、歌詞を繰り返して音読することによって、歌詞のイメージから表現の工夫を考えやすいようにする。常に音楽を形づくっている要素を意識して鑑賞させたり、表現させたりする習慣をつけていきたい。このことにより、学年や段階が上がり、より複雑な構成の曲を鑑賞したり、表現の難しい曲に取り組んだりする際にも自分なりに手がかりを見つけて学習していけるのではないかと考える。本題材で扱う、「はる なつ あき ふゆ」は歌詞が易しい言葉で書かれ、小学校第1学年の子供たちにも四季の様子が想像しやすい。自分の表現したい様子や気持ちを表すには、どのように工夫したらよいかを積み重ね、深めていくことによって、歌詞の内容や曲想を味わい、言葉と旋律のかかわりを理解し、情景を思い浮かべながら、曲にふさわしい表現を工夫して歌うための基礎作りとしたい。

6 題材の指導計画（6時間計画）

| 次                                     | 時       | ○学習内容 ・主な学習活動  | 評価規準   |
|---------------------------------------|---------|--|--|
| ねらい こねこたちが、おどっているようすをおもいうかべながらききましょう。 |         |  |  |
| 第一次                                   | 第1時     | <p>おどる こねこ（鑑賞）</p> <p>○猫の様子を思い浮かべながら、楽曲全体の気分を味わう。〔音色、旋律〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな動物が登場するのか想像しながら、音色や旋律に気を付けて聴く。</li> </ul>  | <p>想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気づいて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>（関心・意欲・態度①行動観察、発言内容）</p> |
|                                       | 第2時     | <p>○場面の様子を思い浮かべて、楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。〔音色、旋律、反復〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猫の様子を思い浮かべて体を動かしたり、鳴き声をまねたりしながら楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。</li> </ul>   | <p>想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気づいて聴いている。</p> <p>（鑑賞の能力①行動観察、発言内容）</p>                   |
| ねらい はくにのって、のびのびとうたいましょう。              |         |  |  |
| 第二次                                   | 第1時     | <p>ひのまる（歌唱）</p> <p>○旋律の特徴を感じ取って歌う。〔旋律〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴いたり、互いの声を聴きあったりして歌う。</li> <li>・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う。</li> </ul>   | <p>歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>（関心・意欲・態度②行動観察、演奏聴取）</p>                           |
|                                       | 第2時     | <p>○旋律や拍の流れに気を付けて、のびのびとした声で歌う。〔旋律、拍の流れ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズごと階名や「ラララ」などで模唱する。</li> <li>・発音や発声に気を付けて歌詞唱する。</li> </ul>  | <p>旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、正しい音程やリズムで歌っている。</p> <p>（音楽表現の技能①演奏聴取）</p>                                 |
| ねらい かしを たいせつに して うたいましょう。             |         |  |  |
| 第三次                                   | 第1時     | <p>はる なつ あき ふゆ（歌唱）</p> <p>○歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌い、表現の仕方を工夫する。〔旋律、拍の流れ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの場面の絵を見て、そこから聞こえてきそうな音や様子を想像する。</li> <li>・歌詞を確認し、歌の練習をする。</li> <li>・「はる」の歌詞のイメージに合わせて歌い方を工夫する。</li> </ul> | <p>歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫①<br/>発言内容、表情観察、演奏聴取）</p>     |
|                                       | 第2時（本時） | <p>○歌詞表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。〔速度、強弱〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の様子が描かれている部分を探す。</li> <li>・グループに分かれて場面を分担し、歌詞の様子にあった表現の仕方を工夫する。</li> <li>・4つの季節をつなげ、全体を通して歌う。</li> </ul>                            | <p>歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。</p> <p>（音楽表現の技能②演奏聴取）</p>  |

7 本時の学習 (6 / 6)

(1) 目標

歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌うことができる。

(2) 展開

| 学習内容と学習活動  | ○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>  |
|--|---|
| <p>1 今月の歌「君をのせて」を歌う。</p> <p>2 言葉を丁寧に発音して、縦書きの歌詞を読む。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>   | <p>○学習の雰囲気を作る。</p> <p>○教科書の [ ] の言葉に注目し、様子を体の動きで表したり、声の強弱や発音に気を付けて読んだりするように助言する。</p>  |
| <p>ようすがつたわるくふうをしようたいましよう。</p>  |   |
| <p>4 場面を想像し、強弱や速度に変化を付けて春の場面を歌う。</p> <p>[例]</p> <p>“たんぽぽ ゆれる” ゆったりと歌う。</p> <p>“わたげが ふわり” 少し小さく歌う。</p> <p>“ちょうちが あいさつ”</p> <p style="padding-left: 40px;">おじぎをしながら歌う。</p> <p>5 グループに分かれて場面を分担し、表現の仕方を工夫する。</p> <p>[例]</p> <p>“おおきな くじら” しっかりした声で歌う。</p> <p>“たいよう きらきら” みぶりをつけて歌う。</p> <p>“こりすが ちょろり” 軽い感じで歌う。</p> <p>“いそいで おでかけ” すばやく歌う。</p> <p>“ちいさな ほしが” ささやくように歌う。</p> | <p>○前時に考えた歌い方を思い出して歌うようにする。</p> <p>○「歌詞→イメージ→使った音楽を形づくっている要素→表現の工夫」という流れを拡大した掲示物を用いて全員で確認する。</p> <p>○グループごとにお気に入りの場面に分かれ、前時に考えた表現の工夫を想起させ、歌詞の表す様子や気持ちに合う表現を工夫できるよう助言する。</p> <p>○生活科の学習コーナーを掲示することで、イメージをふくらませる手助けとする。</p> <p>○イメージしたことや表現の仕方を掲示板を使って、音楽を形づくっている要素と結びつけながら考えさせる。</p> <p>○うまくイメージができない児童には、歌詞をもう一度音読したり、挿絵を見たり、生活科の学習コーナーで具体物に触れたりすることでイメージを持てるように促す。</p> <p>○どんな表現の工夫があるかうまく言葉で表せない児童には体の動きを付けてみてもよいと促す。</p> |
| <p>6 工夫した歌い方を互いに聴き合い気付いたことを発表する。</p>   | <p>○グループ毎にもったイメージが音で表現できているかどうかを音楽を形づくっている要素と結びつけて聴けるようにする。</p> <p>◆歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。 【音楽表現の技能②&lt;演奏聴取&gt;】</p>   |
| <p>7 4つの季節をつなげ、全体を通して歌う。</p>   | <p>○それぞれの季節の様子やイメージが伝わるように歌えたか確認をする。</p>  |